

NPO法人まちの縁側育くみ隊からのお知らせ

2011. August
.....

まちの縁側育くみ隊8年目にあって

まちの縁側育くみ隊は、発足以来8年目。そこには、ヒト・モノ・コトの縁が和のデザインを一貫して進める連続性と、いくつかの点で不連続的変化もみられる。

変化という点では、第1にまちの縁側MOMOからまちの縁側GOGO!へのシフト。地域に開かれた居場所の運営の担い手たちの交代によって、これまでの親密にして柔らかい運びに加えて、音楽に代表されるいっそうの楽しさや精神的満足が得られる場に育っていくことを期待したい。

変化の第2は、都心のまちの縁側=まちの会所が長者町から丸の内への引っ越しをした。都心の会所空間と延藤ライブラリー空間の両方の充実は、私達の活動への共感をもっ

て応援して下さるオーナーの佐藤順一さんに負うところが大きい。

錦二丁目まちづくりマスタープラン作成後、新年度の新项目のひとつである、マスタープラン要約編編集委員会は、これまでの地元の方々のいっそうの熱意と、新しい理事の方の新鮮にして深遠な発想と、我々NPOの誠意を尽くす企画・運営の姿勢が相まって驚くほどに目覚ましい討論・編集成果をみせている。マスタープランというまちの骨格と異質な諸要素が共成している集合（アンサンブル）が束ねられることのように、まちの人達ひとりひとりが「自己の行動のかがみを得た」という意識を急速に喚起させているようだ。

変化の第3は、「震災復興ふるさと再生有縁コミュニティ住宅づくり」を目指して、東北の地に定期的に通うようになったことである。最近出版された岩波新書（内藤克人編『大震災のなかで—私達は何をすべきか』）にその旨を執筆した。事態は恐ろしい程に困難かつ複雑であるが、エンガワデザイン法の実践活動の機会を位置づけ、チャレンジしていきたい。ともあれ、湧き上がる泉の様にとめどもなく溢れてくるエンガワ・コミュニティ・デザインの発想と行動を、仲間・市民・行政等の方々とともに分ちあって前進をつづけたい。

2011年8月1日
代表理事 延藤安弘

縁側ニュースの発行が隔月に変わります。
発行回数は少なくなっていますが、今まで以上に充実した企画と内容で、
多岐にわたるNPO法人まちの縁側育くみ隊の活動をお伝えしたいと思います。
これからもよろしく願いいたします。

今回は、**9月** に発行予定です！

NPO法人まちの縁側育くみ隊 / まちの会所

愛知県名古屋市中区丸の内2丁目18-13 丸の内ステーションビル2F

アクセス

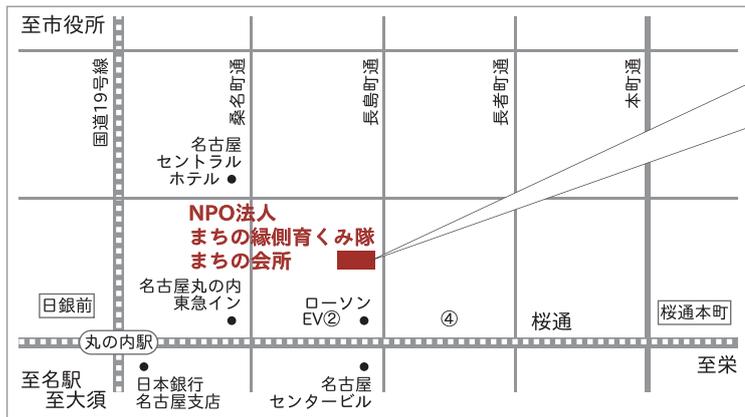
名古屋地下鉄桜通線丸の内駅下車4番出口、
又はエレベータ2番出口より、長島町通り北へ1分

問い合わせ先

TEL&FAX : 052-201-9878 E-Mail : info@engawa.ne.jp

HomePage : <http://www.engawa.ne.jp>

<http://www.kin2bpl.jp/index.html>



編集後記

川澄一代
まちの縁側育くみ隊会員。
現在、地域との関係を大切にした暮らしを実現する建築のあり方を模索中。
川澄一代設計事務所主宰。

皆様こんにちは！次号から「縁側ニュース」の編集を担当することになりました川澄と申します。今年の5月にNPO法人まちの縁側育くみ隊事務局と錦二丁目まちの会所は丸の内に引っ越し致しましたが、私自身は錦二丁目と丸の内の間を行ったり来たりしながら雰囲気の違いを楽しんでいます。ところで、新しいまちの会所には延藤先生が蒐集された絵本が沢山置いてあります。まちや住まいに関する絵本はもちろんの事、飛び出す絵本や私の大好きなネコ様に関する絵本も！思わず手が伸びてしまい、なかなか仕事がかどらないのが悩みの種です(汗)。

そんな新しいまちの会所の片付け作業をしている時に見つけたのが「SUIVONS CE CHAT!」(ノラネコの研究)という絵本。絵本の主人公である、はちわれネコの「たま」は、路地を通り抜け、塀を飛び越え、お気に入りの場所でお昼寝。自分の住んでいるまちを縦横無尽にお散歩します。時にはまちに住む他のネコとの関係を尊重して、ごはんの順番をゆずりあったりすることも。私も「たま」のように会所界隈を知り尽くし、まちの人達との関係を築けるようになってほしいと思います。今後とも、よろしく願いいたします。